

◆基調講演の概要

《演 題》 『 訪日市場の変化と経済効果向上への課題 』

《ゲストスピーカー》 公益財団法人 日本交通公社
観光経済研究部長 主席研究員 塩谷 英生 氏

《概 要》

▶インバウンドについて、アジアの経済成長をベースに訪日市場の存在感は高まっており、観光は成長産業として期待されている。

▶こうした中、渡航手段としてLCCやクルーズ船が増加。外国人客の裾野は広がってきており、大衆化（低所得者層）がみられるほか、リピーターも増え、これまでのゴールデンルート以外への広がりもみられる。今後の伸びしろは海外の低所得者層が中心になるため、優良顧客としてのリピーターの獲得が重要となる。

▶2020年4000万人達成のためには、航空便のキャパシティの限界といった隘路がある。訪日客を呼び込むためのインフラ整備（航空路線やクルーズ船の拡大）などが必要。

▶インバウンド振興は企業利益に直結。如何に大分県に来てもらうかに加え、経済効果は「外国人客数×一人あたりの消費単価×域内（大分県内）調達率」で表れることから県産品をつかった消費単価アップの取組みが重要。

▶そのためには、インバウンドの興味が高い「温泉」などを活かす取組みとそれを伝えるインタープリター（通訳者・説明者）の活用、ブランド食材や景観の活用、宿泊単価の高い客層を取り込むなどの工夫が必要。

▶大分におけるインバウンドの可能性は次のとおり。

- ・温泉文化を伝える工夫とインタープリター（通訳者・説明者）
- ・歴史文化資源、宿坊、古民家を活かす
- ・ブランド食材の活用
- ・景観を付加価値に
- ・福岡からのレンタカー客を誘客
- ・韓国以外のマーケット開拓（香港、シンガポールなど）
- ・日本人客とのバランスの見極め：宿泊単価の高い客層優先
- ・ワンストップの観光体験の拠点づくりを
- ・別府港クルーズ：日帰りでも高付加価値ツアー商品を
- ・ラグビーW杯：国内向けPRの場として重要



【基調講演の様様】